

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



パワーへらエサ グツク



釣れるエサ
フシンド
誘導じやー!



Contents

- 02 Pickup! New Item!! 「美緑」
- 06 超便利! へらエサブレンド計算ツール
- 08 両ダンゴの浅ダナ釣り
- 14 両ダンゴのチョーチン釣り
- 20 ベレット系両ダンゴの宙釣り
- 24 「ヒゲトロ」のセット釣り
- 28 盛期のウドンセット釣り
- 32 両ダンゴの底釣り

夏秋号 2022

HERA BAIT POWER BOOK

Pickup! New item!!

みりよく

「美緑」

釣り場で仕上げる両トコロ専用麩



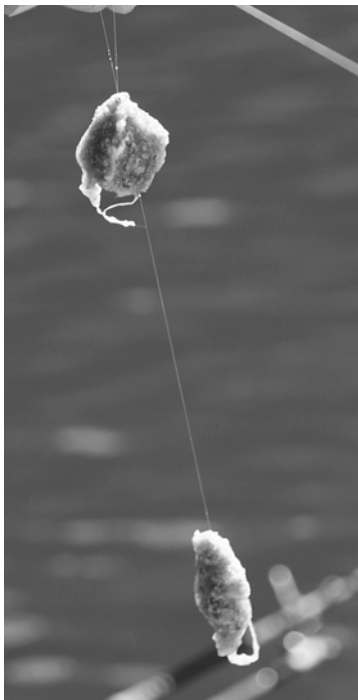
釣り場で仕上げてもしっかりナジむため、釣り前日から仕込まなくても、釣り込めるトコロエサが現場で作れます。トコロにナジませやすく、繊維を切らない設計です。安心してエサ作りができます。また、トコロ自体のネバリを向上させながらも手離れのよいタッチを実現しましたのでエサ付けもより早く行えます。



重さ
バラケ性

「美緑」にはトコロの繊維が含まれておらず、バラけて芯残りする性質から、「ヒゲトロ」セットのバラケ (P26～27) や両ダンゴの締めエサとして使える。

トロロエサに麩材を混ぜ込んだトロダンゴを両バリに付けて釣るのが両トロロの釣り。いま注目されつつある。



過去に大ブームを起した両トロロの釣り。それがここ数年、再注目されています。エサの進化により両ダンゴが主流のなか、両トロロが釣果で凌駕するシーンがチラホラと目立ってきているのです。

両トロロとは、トロロエサに少量の麩材を混ぜ込んだものを2本のハリに付けて釣る釣り方。そのメリットは、平日など沸き上がるほどの高活性時に、両ダンゴでは太刀

打ちできない場面でもエサが持つこと。極めてやわらかいエサが打てること、ハリに繊維が残ることなどで空振りが少なくヒット率が高いことがあります。また、時合落ちしたときでも、エサの近くにへら鮒が漂っている場合、ダンゴには飛びつかなくてもトロロなら吸い込んでくれることもあり

ます。そんな両トロロの釣りで一番ネックになっているのは、釣行前日にエサを仕込まなければならぬことです。これはトロロと麩材がしっかりナジむまで時間を必要とするからです。釣れるかどうか分からない、使わない可能性もあるトロロエサを前日に仕込むのは抵抗があるでしょう。

そこで「美緑」の登場

です。トロロにすぐナジむように開発されたので、現場作りを可能としました。釣りをしながら、状況をみて必要な場面ですぐ作れるのです。これなら高価なトロロをムダにすることもありません。

「美緑」の特徴は、強いネバリでトロロエサをまとめ、適度にバラけてくれることです。近年、地球温暖化の影響もあり、トロロ自体のネバリが少なくなっています。それだけトロロが開きやすくなっているのです。その現状を踏まえ、トロロをまとめめる性能に優れているのが「美緑」なのです。両トロロの釣りを一度やってみると、その面白さにハマる釣り人も多くいます。ぜひ、一度チャレンジしてください。



+



+



+



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=5号

●セッティングの注意点

セッティングは両ダンゴとほぼ同じでいいが、エサがナジまない場合はウキサイズを大きめにする。また、同様の理由でハリスはあまり長くしないほうがいい。チョーチン釣りの場合、ムクトップを使って縦誘いを入れながら釣るのも有効だ。

釣り場で仕上げる両トコロ専用麩「美緑」 エサ作りと使い方

●エサブレンド

「極上とろろハード」1 分包+
水 300 cc +
「とろスイミー」50 cc+
「美緑」300 cc

●作り方

「極上とろろハード」1 分包を繊維を切らないようにほぐしながら、エサボウルに広げる。次に水 300 cc を注ぐが、ムラにならなよう 100 cc ずつ 3 回に分けてまんべんなく注ぎ、トコロに水がゆきわたってないところがないように全体を混ぜる。そこへ「とろスイミー」50 cc を全体に振りかけるように加え、繊維を切らないようにいねいに混ぜ合わせる。最後に「美緑」300 cc を同じく全体に振りかけるように加え、繊維を切らないようにいねいに混ぜ合わせる。粉っぽいところなくなるまで、トコロを折りたたむように混ぜていくのがコツ。ムラなく全体が混ざったら基エサの完成。

両トコロのエサ作り動画はコチラ→



●使い方

できあがったエサをひとつかみほど取り出し、押し練りを加えてエサ持ち加減を調整しながら打っていく。へら鮎の寄りが悪い時は、「美緑」をひとつまみ振りかけて押し込むように混ぜる。トコロの開きが悪いとき（持ちすぎで空振る）は、手水で押し練りをしてやわらかくする。

エサをブレンドする際に、水分量で悩んだことはないだろうか？ お決まりのブレンドなら水分量も決まっているが、ちょっとエサを追加したり、オリジナルのブレンドを試してみようと考えたとき、水分量を間違えて硬くできたり、やわらかすぎたりしたこともあるだろう。

そんなときに役立つのがパソコンやスマホで利用できる「へらエサブレンド計算ツール」。使い方は簡単で、エサの品名を選択して分量を打ち込むだけで計算してくれる。

計算できるエサは、麩エサだけでなくグルテンやマッシュにも対応している。表示される水量は硬め、標準、やわらかめとあるので好みの仕上がりで作ることもできる。また、エサ持ち、重さ、粒子のレーダーチャートも同時に見ることができ、作ったブレンドの特性がひと目で分かる。

オリジナルブレンドを考えたり、釣り場でブレンドを試したいとき、うっかり水分量を忘れたときなど、あらゆる場面で役立つので、ブックマークしておこう！

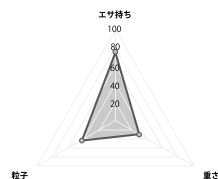
カクシン	500 cc	エサを追加
コウテン	200 cc	エサを追加
カルネバ	100 cc	エサを追加

ブレンド計算をする リセット

ここに「カルネバ」100 ccを追加してみる。同じように水分量が計算されるので、とても便利。

エサの量	水分量		
	硬め(90%)	標準(100%)	やわらかめ(120%)
800cc	196 cc	118 cc	261cc

エサ持ち	重さ	粒子
★★★★★	★★★★★	★★★★★



エサ持ち	78
重さ	29
粒子	42

ブレンドの特性の数値やレーダーチャートを見ると、エサ持ちがアップ、エサが軽くなり、粒子が細くなったことが分かる。

へらエサ ブレンド 計算ツール



使用例

カクシン	500 cc	エサを追加
コウテン	200 cc	エサを追加
<input type="button" value="ブレンド計算をする"/>		<input type="button" value="リセット"/>

エサを選択し、分量を入力。ブレンドしたい場合は、「エサを追加」ボタンを押下するとエサの項目を追加できます。同様に必要事項を入力。

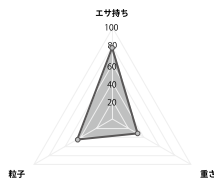
「ブレンド計算をする」ボタンを押下すると、計算結果が表示されます。

ブレンド計算結果

エサの量	水分量		
	硬め(90%)	標準(100%)	やわらかめ(120%)
700cc	174cc	193cc	231cc

エサ持ち	重さ	粒子
★★★★★	★★★★★	★★★★★

ブレンドの特性が数値やレーダーチャートでひと目で分かる。



エサ持ち	77
重さ	32
粒子	44

盛期に数を釣る定番釣法

両ダンゴの浅ダナ釣り

釣り方のコツ

盛期のへら鮒釣りにおいて、一番数が釣れるのが浅ダナの両ダンゴ釣りです。短めのサオ、タナが浅いことで釣りの回転が早く、ダンゴエサを上手に合わせられれば、それだけ早いタイミングでアタリますので、よりスピーディーに釣っていくことができます。そして、

時間帯によっても魚の活性は変わりますので、活性に合わせてエサを調整して1日を組み立てます。自分であれこれ試行錯誤してエサを合わせられれば、面白いように釣れる。これがこの釣りの醍醐味です。

打ち始めは、作ったエサをそのまま丸めてエサ打ちしてみてください。この段階でエサがどのくらい持つのかを確認します。エサが持たないよう

でしたら、少しエサ付けの圧を強めてみます。少しずつ調整してどのくらいのエサ付け加減でエサが持つのかを探っていきます。

盛期ですので、エサを打てば次第にへら鮒は寄ってきます。ウキに魚の気配（ナジむ速度が遅くなる、エサが持たなくなる）を感じたら、押し練り（甲側の指を使ってエサを押しエアーを抜く）を加えてエサをしつかり持たせるようにします。そして、エサが持った状態で空振りでもいいので強いアタリがでるようにならせます。

アタリがでるようになってきたら、そのアタリに対してヒット率を高めるようにします。ここでエサの大きさやタッチを調べるのですが、基本、最

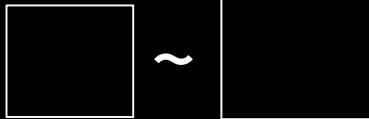
初に打っている基エサの状態が一番硬いエサなので、タッチはやわらかくする方向です。

具体的には、手水（手を濡らした状態でエサをかき混ぜること）で調整していきます。1回、2回と少しずつ調整してへら鮒がエサを食うタッチを見つめます。これと同時にエサがやわらかくなるとエサ持ちが悪くなります。エサをかき混ぜるだけでも少しネバリはありますが、それでも足りないときは押し練りを加えていきます。

エサを練っていくと、今度は開きが少なくなります。するとへら鮒の反応が悪くなります。この場合は、エサをやわらかくしたり、基エサを足して開きを復活させたりします。このようにエサが

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 15mm×17mm～17mm×20mm



仕掛け図

竿●7～10尺

ミチイト●0.8～1号

ウキ●ボディー5～7cm
パイプトップ

ハリス●
0.4～0.6号
上20～30cm、下27～40cm

ハリ●上下5～7号

サワリがあるのにアタリがでないのは、何かしらの理由でエサが食いづらいと考えましょう。一番はエサのタッチです。基本的にエサはやわらかいほうが食いやすいもの。エサが持つ範囲でできる限りやわらかくしてみましょう。また、エサが大きすぎて食いづらいうちも考えられますので、タッチと同時にエササイズも調整します。これとは逆にエサが硬くなるとアタリがないこともあります。やわらかくしてアタリがないなら硬いエサも試してみま

しょう。アタリはできるがヒットしない、いわゆるカラツンの場合、まずはエサが持っているアタリかどうかを見極めます。エサが持っているのではありません、それはカラツンではなくイトズレ。まずはエサが持った状態でアタリがでるようにしましょう。確実にエサが持っている状態で空振るようなら、エサのタッチを探ります。また、エサが持ちすぎて空振るということでもありますので、エサの大きさやハリのサイズで対応します。逆にウキが動きすぎて空振るようなら、ハリスを詰めてみることも必要です。

釣っているなかで、最初は釣れていたのに、だんだんとアタリがでなくなることはよくあること。こうなったときは、まずはとにかくエサが持つ強いアタリがでることを目指します。基エサ(硬いエサ)を足してみる、または基エサを打ってみるなどして、もう一度戻ってみることでアタリがでないのは、魚の寄り不足が考えられますので、改めて魚を寄せることを心がけます。他にも、少し大きなエサを打つ、エサ付けをラフにする、エサ打ちのテンポを上げると魚を寄せる効果があります。アタリがでなくなる前に、アタリ数が減ったり、アタリがでるタイミングが遅くなったりとサインはでてきます。このサインを感じたら、意識的に魚を寄せることを考えましょ

う。持ってなおかつ食ってくると正解のタッチを探っていくのが両ダンゴ釣りの基本です。盛期の釣りですから、ウキが動かないということとは少ないでしょう。どちらかといえば、サワリはあるのにアタらない、アタるけど空振るといったことが多くなります。サワリがあるのにアタ

りがないのは、何かしらの理由でエサが食いづらいと考えましょう。一番はエサのタッチです。基本的にエサはやわらかいほうが食いやすいもの。エサが持つ範囲でできる限りやわらかくしてみましょう。また、エサが大きすぎて食いづらいうちも考えられますので、タッチと同時に

同時にエササイズも調整します。これとは逆にエサが硬くなるとアタリがないこともあります。やわらかくしてアタリがないなら硬いエサも試してみま

しょう。アタリはできるがヒットしない、いわゆるカラツンの場合、まずはエサが持っているアタリかどうかを見極めます。エサが持っているのではありません、それはカラツンではなくイトズレ。まずはエサが持った状態でアタリがでるようにしましょう。確実にエサが持っている状態で空振るようなら、エサのタッチを探ります。また、エサが持ちすぎて空振るということでもありますので、エサの大きさやハリのサイズで対応します。逆にウキが動きすぎて空振るようなら、ハリスを詰めてみることも必要です。



+



+



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=6号

打ち始めや動きが少なくなったときなど、魚を寄せたい場面では左のようにエサに角を付ける。魚がいて食わせたい場面では、丸くエサ付けするのが基本。

両ダンゴの浅ダナ釣り

現代両ダンゴの大定番ブレンド

●エサブレンド

「カクシン」500 cc+
「コウテン」200 cc+
水 200 cc

●特徴

ネバリ、軽さ、バラケ性のバランスが最適の「カクシン」に、「コウテン」をブレンドすることで、よりしっかりしたエサに仕上がる。盛期のへら鮎の Attacksがあっても芯残りするのでアタリが明確にでる。

●作り方

「カクシン」500 cc、「コウテン」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。そのままつまんで丸めてエサ付けして打ち始める。最初はナジミ幅がでないこともあるが、少しずつエサ付けの圧を調整してナジミ幅がでるようにする。魚が寄ってきたら、しっかりナジミ幅がでるようエサ付けの圧やエサに押し練りを加える。



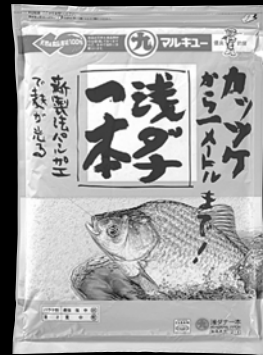
+



+



+



+



両ダンゴの浅ダナ釣り

軽くて開くのにエサ付けしやすい

●エサブレンド

「カルネバ」200 cc+

「凄麩」200 cc+

「バラケマツハ」200 cc+

「浅ダナー一本」100 cc+

水 200 cc

●特徴

軽さと開きが特徴のブレンド。へら鮎の寄りをキープしながら釣る、少し高い位置でアタリをだしたり、高い位置の魚をタナに呼び込みながら釣る場合に有効なブレンド。

●作り方

「カルネバ」200 cc、「凄麩」200 cc、「バラケマツハ」200 cc、「浅ダナー一本」100 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。そのままつまんで丸めてエサ付けして打ち始める。最初はナジミ幅がでないこともあるが、少しずつエサ付けの圧を調整してナジミ幅がでるようにする。魚が寄ってきたら、しっかりナジミ幅がでるようエサ付けの圧やエサに押し練りを加える。

ダイナミックな釣りが楽しめる

両ダンゴの チョーチン釣り

釣り方のコツ

スピーディーに数を釣ってゆく浅ダナ釣りに対して、力強いアタリ

でダイナミックに釣ってゆく面白さがあるのがチョーチン釣りです。深場からへら鮒を釣りあげるやりとりはエキサイティングですし、振り込みのしやすさから同じポイントにエサを打てるのでタナにへら鮒を厚く寄せることができ、ビッグナーでも大釣りの可能性が高い釣り方です。

この釣り方のポイントには、深いタナに確実にエサを届けることです。そのためにも重要なのが、オモリを十分に背負う大きなウキを使うことです。へら鮒の活性が高くなる時季に、小さいウキではエサを確実にタナまで届けることができません。エサがタナまで届

かなければ釣りになりませんので、大きいウキを使うことが大前提です。

釣り方のイメージとしては、オモリを早めにタナへ届かせ、そのあとからゆっくり落下するエサでへら鮒にアピールして、落下中やハリスが張り切るぐらいのタイミングでアタらせるのが理想的です。

ウキの動きでいえば、ウキが立ったところでトメがあり、ウケやサワリがでながらナジんでいき、ナジミ途中で小さく鋭くアタるか、ナジミ切る寸前でズバツと消し込むイメージです。

これは近年、タナでエサをぶら下げた状態ではなかなかアタリがない、アタってもタイミングが遅い、空振りが増えるなどの傾向があるた

め、上から追わせる釣り方が主流になつています。

へら鮒にエサを追わせるには、エサが軽いこと、それでいて適度に膨らみ、ある程度のバラケ性が求められます。軽くて開くということは、魚の寄り次第ではエサが持ちにくくなります。軽さと開きでへら鮒に興味を抱かせたとしてもエサが持たなければ食いアタリにつながりません。この部分を上手くクリアすることが、両ダンゴのチョーチン釣りのポイントです。

エサに関していえば、先に触れたように軽さと開きが求められ、なおかつエサが持つ必要があります。これをエサブレンドの考え方の目安としてください。近年発売され

た「カクシン」や「コウテン」はこういった条件にマッチしたエサ。プレンドのベースとして使うといいでしょう。これにもっと軽くする、バラケ性を高める、エサ持ちをアップするなど、その日の状況に足りない部分を補うと、正解に近いプレンドにたどりつくと思います。

セッティングでいえば、アピールを重視するためハリスは長めになります。これもエサが持つ範囲でという条件がきます。また、ナジミ途中の動きが分かりやすいPCムクトップのウキを使うことで、落下中のアタリがとりやすくなります。さらに魚が多くてウキの入りが悪いときはグラスムクトップを使いましょう。どの釣り方も

そうですが、エサとセッティングのバランスが合わないといけません。釣れるエサを生かすためにも、セッティングをだすことをおろそかにしないことです。

この傾向とは違い、タナにエサがぶら下がってからサワリがでてアタリにつながる場合もあります。このパターンのとき

は、落下中に必要以上のアピールをしないためにも、エサの開きを抑えま。ハリスも短めになり、タナでエサを抱えてくれるパイプトップが有効です。

どちらのアプローチも、ウキの動きを見ながら判断します。まずは、ウキが立ったところから動きがでるのか、エサが

ナジんだところから動きがでるのかを見極めていきます。そこからアタリがでる位置、そのヒット率を見極めましょう。そうすることで、自ずと釣れるパターンが見えてくるのです。

オモリ 実寸大

短竿

「絡み止めスイッチシンカー」0・8g

+

0.25mm厚板オモリ
17mm×27mm

長竿

「絡み止めスイッチシンカー」2・0g

+

0.25mm厚板オモリ
17mm×33mm

仕掛け図

竿●8～21尺
ミチイト●1～1.2号

ウキ●ボディー 10～16cm
パイプトップ、PCムクトップ、グラスムクトップ

ハリス●0.5～0.6号
上40～55cm、下50～70cm

ハリ●上下6～8号



+



+

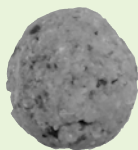


+



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=7号

両ダンゴのチョーチン釣り

適度な開きとエサ持ちに軽さを強調

●エサブレンド

「カクシン」400 cc+

「コウテン」200 cc+

「浅ダナー本」200 cc+

水 200 cc

●特徴

現代両ダンゴのベースとなる「カクシン」に、適度なバラケ性を持つ「コウテン」、軽さを強調する「浅ダナー本」のブレンド。軽さと開きによるアピールがありながらエサ持ちも十分だ。

●作り方

「カクシン」400 cc、「コウテン」200 cc、「浅ダナー本」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。そのままつまんで丸めてエサ付けして打ち始める。最初はナジミ幅がでないこともあるが、少しずつエサ付けの圧を調整してナジミ幅がでるようにする。魚が寄ってきてもウキがナジミ切るようにエサ付けの圧やエサに押し練りを加える。



+



+



+



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=7号

両ダンゴのチョーチン釣り

寄りが強い場面でもしっかり持つ

●エサブレンド

「コウテン」400 cc+

「ガッテン」200 cc+

「カルネバ」200 cc+

水 200 cc

●特徴

「カルネバ」をブレンドすることでエサ持ちを強調しつつ、「コウテン」と「ガッテン」が芯残りや粒子感をだしてエサをしっかりさせながらもバラケ性をキープしている。

●作り方

「コウテン」400 cc、「ガッテン」200 cc、「カルネバ」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水 200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。そのままつまんで丸めてエサ付けして打ち始める。最初はナジミ幅がでないこともあるが、少しずつエサ付けの圧を調整してナジミ幅がでるようにする。魚が寄ってきてもウキがナジミ切るようにエサ付けの圧やエサに押し練りを加える。

良型を揃える強い釣り

ペレット系 両ダンゴの宙釣り

釣り方のコツ

ペレット系両ダンゴとは、ペレットエサを配合した両ダンゴの釣りであり、いわゆるペレ宙のことです。ペレットエサを使うことで、良型が揃う大釣りができるのがメリットです。

ペレットエサは麩系のダンゴエサより重さがあります。それだけタナにしっかりとエサを入れて釣っていくことができます。つまりタナで強いアタリをだして釣っていくのがポイントです。

実際には、まずしっかりとエサをナジませ、そこからサワリ、アタリへと連動するのが基本です。どちらかといえば、落下中の動きはおとなしめになります。ですから、麩エサの両ダンゴのようにタナより高い位置から動きをだそうとはしません。

必要以上にウキを動かすようなことをしないというのがコツになります。それゆえ、大きめのウキ、短めのハリス、バラけすぎないエサというのが基本セッティングになるのです。

続いてポイントになるのがアタリの取り方。基本的には力強いアタリを取ります。言葉でいえば「ドカン」と表現するようなアタリです。エサがナジンだところからアタらせるのが基本ですから、落ち込みのアタリなどは、確実に食っている自信がないかぎりは見送って、しっかりとナジンだあとにできるアタリに絞ります。

こうすることで、よりタナの意識ができます。これこそがペレ宙の釣れる秘訣になります。早い

アタリや高い位置の動きを増やしたり、アワセたりしてしまったり、それだけ魚は上がってしまいません。もちろん、これでも釣れないことはないですが、ペレ宙本来のねらいである大型を揃える釣りにはなりません。明らかに普通の両ダンゴ釣りと違う良型を揃えることで釣果をだす釣りです。

釣れだした時間は少し掛かるかもしれませんが、しかし、時間とともに地合ができて良型を揃えられます。ですから、周りが釣れだしていても焦る必要はありません。例えなどでは、終わってみれば圧勝、たとえ枚数では劣ったとしても重量では勝てる。そういう釣りがペレ宙なのです。

タナまでしっかりとエサを届けるのが重要になる

ペレ宙ですが、エサを必要以上に練って持たせるのはNGです。時間経過とともにエサが締まりやすいペレットエサをさらに練り込んでしまうと開きが足りなくなり、へら鮒を呼び込むことができ

ません。そこで適度な開きを維持したままエサを持たせるにはハリサイズ

の調整が有効です。ときには8号、9号という大きなハリが必要な場面もありますので、大きめのハリの準備はしておきましょう。

また、この釣りではトップの太いパイプトップを使います。それは、重めのエサを支えることと、余計な動きを表現させないためです。細いトップではアタリのように大きく動いてしまう動きをあえて弱くするため

に太いパイプトップを使うのです。

一方で、このような強めのペレ宙では釣りが成立しない場面もあります。そんなときはセッティングを弱めにして、普通の両ダンゴとペレ宙の中間的な感覚で釣っていくライトペレ宙が有効

です。サオは短め（短〜中尺）、ウキも通常の両ダンゴより少し大きいぐらいのものを使います。釣り方の基本線はペレ宙と同じですが、セッティングが軽くなっている

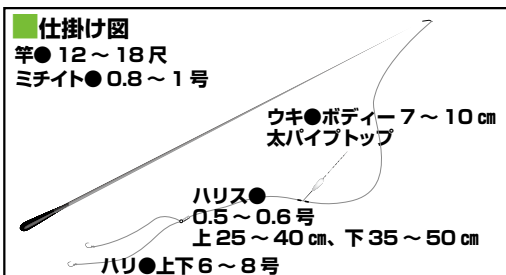
ので、早いタイミングのアタリも多くなります。ライトペレ宙の場合は、このアタリも合わせていき、数を釣りつつときには良型も混じるといのが理想です。養殖のへら鮒は、飼料

用ペレットで育てられるので、ペレットエサに反応します。また、ペレットのエサを撒いている池では、当然のようにペレットエサに反応がよく

なります。そういう傾向の強い池ではペレットエサが有効なので、ペレ宙という選択は充分にアリ

なのです。ただ、いつでも効くかといわれればそうでもなく、天候に左右される

ことが多い釣りです。ねらいめは晴れた日。曇天などでは、魚が浮きやすく、この釣りの醍醐味である、タナで大型を揃えるという魅力が半減してしまします。そういうときは臨機応変に対応し、ライトペレ宙、魅エサの両ダンゴと釣り方を使い分けるといいでしょう。





+



+

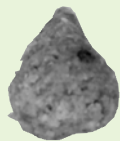


+



エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=7号
(ライトベレ宙=6号)



高活性時には、上記ブレンドの「軽越」を「BB フラッシュ」に変更してエサ持ちをアップする。

ペレット系両ダンゴの宙釣り

両ダンゴ感覚で使いやすい

●エサブレンド

「ペレ軽」400 cc+

「カクシン」200 cc+

「軽麩」200 cc+

水 200 cc

●特徴

ペレット系ダンゴエサ「ペレ軽」をベースに「カクシン」をブレンドすることでエサ付けしやすくなる。また「軽麩」を入れることで適度なバラケ性も備えている。

●作り方

「ペレ軽」400 cc、「カクシン」200 cc、「軽麩」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水 200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく 20～30 回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。軽く押し練りして丸めてエサ付けて打ち始める。トップ先端までしっかりナジむよう手揉みや押し練りを加えて調整する。

両ダンゴで釣れないときの切り札

「ヒゲトロ」の セット釣り

釣り方のコツ

「ヒゲトロ」のセット釣りは、両ダンゴで釣れそうでなかなか釣り切れないうえに有効な釣り方です。ダンゴエサへ興味は示すものの、混雑によるプレッシャーや食いがイマイチで、ダンゴエサそのものを食うことが少ないとき、ウキの動きでいえばサワリはあるが食いアタリがでにくい場面が増えます。

この釣りのポイント
は、ダンゴエサを食って
くれない状況を攻略する
釣り方なので、セット釣
りとはいってもある程度
バラケエサ(ダンゴエサ)
に近づける意識が必要で
す。場合によっては食い
アタリの半分近くがダン
ゴエサを食ってきても問
題ありません。
そのため、バラケエサ
といってもダンゴタッチ

で、ブレンドも両ダンゴ
の釣りでも使えるような
ものになります。違う点
といえば、ダンゴエサそ
のものを食わせようとや
わらかく練っていく度合
いが少なく、多少のバラ
ケ性を残しておくこと。
これは極端にバラケ性の
少ないエサではへら鮒の
寄りをキープできないか
らです。

かといってウドンセツ
トのように開いてしまっ
たエサでは、くわせエサか
ら離れてしまい、ウキは
動くものの、食いアタリ
ができません。このへら鮒
を寄せる距離感が「ヒゲ
トロ」のセット釣りのポ
イントともいえます。

基本的な釣り方は、バ
ラケエサをしつかりナジ
ませてからサワリがで
て、アタリにつながるの
が理想です。タナにへ

ら鮒を寄せることを意識
し、タナでアタらせるこ
とが安定した釣果につな
がります。両ダンゴで使
うウキよりワンサイズ小
さいパイプトップを使用
し、トップ先端までなじ
ませてからの動きで釣っ
ていきます。

一方で釣り場や状況に
よっては高い位置からの
動きが強いことがあります。
こういう場合は、細
めのパイプトップ、また
はPCMクトップのウキ
を使い、サワらせながら
もナジむようにして、高
い位置でのアタリやナジ
んですぐのアタリなど、
早いタイミングのアタリ
もねらっていきます。よ
り上層の魚が強く、ウキ
をナジませられないとき
はグラスムクトップを選
択するのもアリです。

この釣りでよく起こ

■浅ダナ仕掛け

竿●7～15尺
ミチイト●0.8～1号
ウキ●ボディ5～8cm
パイフトップ
ハリス●上0.6号8cm
下0.5号13～18cm
ハリ●上6～8号、下4～6号

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 17mm×15mm～
17mm×25mm



■チョーテン仕掛け

竿●7～10尺
ミチイト●1～1.2号
ウキ●ボディ7～10cm
パイフトップ、ムクトップ
ハリス●上0.6号10cm
下0.5号15～20cm
ハリ●上6～8号、下4～6号

●オモリ 実寸大

「絡み止めス
イッチシン
カー」0.8g



0.25mm厚板オモリ
17mm×27mm

●くわせエサ 「ヒゲトロ」



「ヒゲトロ」は袋から適量を取り出し、ほぐして水に浸す。それをハリに引っ掛けるだけ。良質な繊維がしっかりとハリがかりしてエサ持ち抜群。チャック袋採用で、開封後でも品質が安定。



「ヒゲトロ」はチャックをしっかりと閉め、日に当たらないようバッグに入れて保管する。

い。積極的
に試
してくだ
さい。
上手く釣
れないと
きは、
両ダンゴ
で
いるので
高くなつ
て
りの実績
が
のセット
釣
「ヒゲト
ロ」
ここ数年
が魅力で
す。
率が高い
の
れ、ヒッ
ト

るのが、ウキが動くわりにアタリがでないことです。アタリがでない理由としては、くわせエサの「ヒゲトロ」が付いていない、上エサのバラけ過ぎ、くわせのハリスが張っていないなどが考えられます。

くわせエサが取れてしまふのは、付け方に問題があります。ハリに「ヒゲトロ」を掛ける際、少量を数回に分けて掛けるようにします。これだけでエサ持ちはアップします。

が続いて上エサがバラけ過ぎると、へら鰯が遠巻きになります。この場合は、エサを丁寧につける、小さくつける、エサを練ってバラケ性を抑えることを試しましょう。

最後にくわせのハリスが張っていない場合です。「ヒゲトロ」は水中で広がる軽いエサです。思った以上にハリスは張りにくいと思つてくださいます。上手くアタリがでないときは、くわせのハリスを語る、ハリを重くするのを試します。この釣りではハリスの長さが1cm違うだけでアタリがたり、ヒット率があがったりするので、こまめな調整が必要です。



+



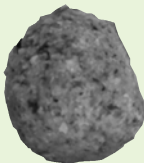
+



よりダンゴタッチにするときは、
「凄麩」を粒子の細かい「バラケマッハ」に変える。

エサの大きさとハリ

実寸大



浅ダナ



推奨ハリサイズ=7号



チョーチン

「ヒゲトロ」のセット釣り

浅ダナでもチョーチンでも使える

●エサブレンド

「美緑」 200 cc+

「凄麩」 200 cc+

水 100 cc

●特徴

ネバリがあってエサをまとめて持たせてくれる「美緑」に、粗い麩で寄せ効果がある「凄麩」をブレンド。ウキが動きすぎるようなら、細かい粒子の「バラケマッハ」に置き換えてダンゴタッチにする。

●作り方

「美緑」200 cc、「凄麩」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水100 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。そのまま丸めてエサ付けして打ち始める。トップ先端までしっかりナジむよう手揉みや押し練りを加えて調整する。

強い釣りで良型を釣り込む

盛期のウドン セット釣り

釣り方のコツ

盛期には出番のないと思われがちなウドンセット釣りですが、盛期ならではの釣り方がありません。それは「バラケマツハ」をベースにしたバラケエサを使う釣りです。この釣り方が生まれた背景には、盛期でありながら、微妙な食い渋りや混雑による難時台ということが起き、両ダンゴや「ヒゲトロ」セットでは釣り切れない場面があるからです。そして、両ダンゴや「ヒゲトロ」セットに負けないぐらいの釣果をだせる魅力もあります。

なぜなら、渋い時季のウドンセットとは違い、動きは多くアタリも豪快にでる。形上はウドンセットですが、釣りのイメージは両ダンゴと変わりません。ですから、釣りとしての面白さもありません。

「バラケマツハ」をベースにするのは、細かい粒子で開きがあるからです。へら鮒を寄せるための開きは当然ですが、粒子が細かいことで遠巻きになりにくいメリットがあります。つまり、ウドンセットとはいえ、エサに接近させて釣る釣りなのです。なので、上エサを食ってくることもしょっちゅうです。

釣り方は短竿のチョーチンがベターですが、最近では浅ダナでも実績がでていきます。釣りのポイントには、しっかりウキをナジませて釣っていくことです。打ち始めの魚のいない状態では沈没するぐらいのイメージです。そこから魚が増えるとともにトメやサワリが強くなりますが、それでもエサがナジむようにしていきます。

開くエサをナジませるためエサは大きめになります。それを助けるためにウキも大きめ、そしてグラスムクトップ、または細めのPCMクトップを使うのが前提条件となります。

へら鮒が寄ってナジミ幅が少なくなってきたら、押し練りをしてエサを持たせるようにします。エサ付けも角がないように丸くていいに付けます。これだけでナジませやすくなります。

理想的なウキの動きは、ウキが立ってサワリをだしながらゆっくりナジんでいき、ナジミ切った所で消し込みに近い力強いアタリが本命です。ナジんでいく途中にサワリもでないようであれば

■浅ダナ仕掛け

竿●8～10尺
ミチイト●1～1.2号
ウキ●ボディ6～8cm
ハイトップ
ハリス●上0.8号8cm
下0.6号20～30cm
ハリ●上8号、下6号

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 17mm×30mm



■チョーテン仕掛け

竿●8～10尺
ミチイト●1.2～1.5号
ウキ●ボディ9～12cm
PCムクトップ、グラスムクトップ
ハリス●上0.8～1号10cm
下0.6～0.8号25～35cm
ハリ●上9～10号、下7～9号

●オモリ 実寸大

「絡み止めス
イッチシン
カー」0.8g



0.25mm厚板オモリ
17mm×30mm



バラケエサに角を付ける
ラフ付けにし、ウキが
ゆつくりとナジむよう
にします。
ウキの動かし方として
は、両ダンゴのチョーテ
ン釣りの動きを目指して
ください。サワリながら
ナジんでいき最後にドカ
ン！ ナジミ切った所で
釣っていくと場合が長続

きし、次第に良型揃いに
なります。
へら鮒を大量に寄せて
釣るので、魚のアオリは
相当強くなります。それ
に対処するために、仕
掛け全体が大きくなりま
す。弱い仕掛けではトラ
ブルが多く釣りになりま
せん。また、くわせエサ
も大きく持つものが必要

になります。小さいくわ
せエサではエサが持たな
い、ハリスが張らないこ
とが起きます。ハリスが
張らないと、へら鮒がく
わせエサを食ってもウキ
にその動きが伝わりませ
ん。ですから大きなくわ
せエサが必要になりま
す。ハリスが太く、ハリ
も大きめで、くわせエサ

も大きいことから、強い
アオリの中でもハリスを
張りやすくして強いアタ
リがでるようにするので
す。
大きなくわせエサを使
うメリットはもうひとつ
あります。それは、くわ
せエサをへら鮒に見せて
アピールする効果です。
通常のウドンセットは、

●くわせエサ

「カ玉ハードⅢビッグ」
「カ玉ハードⅡ」



バラけた粒
子にくわせ
エサを紛れ
込ませて吸
い込ませる
ものですが、
この釣りは、
明らかにく
わせエサの
ウドンをへ
ら鮒に見せ
て飛びつか
せるのです。



+



+



押し練りを加えてエアを抜いてから打ち始める。エサが持たなければさらに押し練りを加える。

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=9号

盛期のウドンセット釣り

開くエサを持たせやすく

●エサブレンド

「バラケマツハ」800 cc+
「浅ダナー本」200 cc+
水 200 cc

●特徴

細かい粒子で開きのある「バラケマツハ」をベースに、エサの間に入り込むことでエサ付けしやすくなる「浅ダナー本」をブレンド。

●作り方

「バラケマツハ」800 cc、「浅ダナー本」200 ccをエサボウルに入れて軽く混ぜ合わせたところに水200 ccを注ぐ。ムラがないように大きく20～30回かき混ぜ、エサがまとまりだしたら基エサの完成。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。押し練りを加えて、エサがしっかり持つようにエサ付け。持たない場合は、押し練りを何度か繰り返す。

ウキの動きを見極めて釣ろう

両ダンゴの底釣り

釣り方のコツ

底釣りは底釣りならではのウキの動き、いわゆるナジんでからサワリでウキが上がり、ツンとアタる一連のウキの動きが面白く、ウキ釣りの醍醐味を最大限楽しめる釣り方です。

ウキの動きを楽しめる底釣りですが、魚の活性が高い夏・秋は、必要以上にウキが動きすぎてしまうことがあります。ウキが強く動けばアタリだと思いがちですが、思った以上に糸ズレなどの余計な動きに合わせてしまっていることも多いものです。

そこで、食いアタリを見極める選球眼が必要になります。一般的に底釣りのアタリは小さく鋭いものです。消し込むような大きなアタリはスレや糸ズレの可能性が高

いです。また、食いアタリの前触れとして、ウキが少し上がる動きがあります。この動きのあとにアタリは食いアタリの可能性がかなり高いので、こういったウキの動きを見極めましょう。さらに、最初のアタリで空振りが多いようならアタリを送ってみたり、アタリがでるタイミングの違いでのヒット率の差などを見極めていくと、面白いようにヒットパターンが見えてきます。

底釣りで釣れなくなる現象として起きるのがウワズリです。底で釣るのに魚が上がってしまったのはこの釣りは思うように釣れません。失敗しないためにも、底釣りの基本ともいえるナジミ幅のキープを意識してください。このナジミ幅は、エ

サの持ち具合、タナの変化などを感じ取れる唯一の情報源です。このナジミ幅の変化に敏感になることが底釣りで釣る秘訣です。

両ダンゴの場合、3〜4目盛りのナジミ幅をだすのが一般的です。魚がいない打ち始めて、まずこの基準となるナジミ幅が確実にでているかを確認してください。打ち始めからナジミ幅がでないということは、エサが持っていないか、タナが合っていないかです。

打ち始めはこのナジミ幅がきちんとできていても、次第に魚が寄つてくるとエサが魚にもまれ、ナジミ幅が少なくなりま

す。ナジミ幅が減るということはハリに残っているエサ量が少ないということです。つまり、エサ

[実演] タナ取り方法

底釣りはタナ取り（水深を測ること）がすべてといわれるほどタナは重要です。釣りを始める基準であり、地形変化や底の状態の変化（釣っている途中でヘド口やゴミが取り除かれて水深が変わること＝底が掘れた）を知るための唯一の手段です。このタナ取りをおろそかにしては底釣りは釣れません。動画でわかりやすく解説しているのでチェックしよう。



が持たない状態になるということ。ウワズリや弱くなるのはもちろん、肝心なところでエサが持たなければアタリもできません。これを防ぐにはエサを確実に底まで持たせることです。エサをしつかり

ハリ付けする、エサに押し練りを加えてエサ持ちをよくするといった対応が求められます。このエサ持ちを確実なものとするためにも、基準となるナジミ幅のキープが重要になってくるのです。夏から秋の底釣りはウキが動くことで、たくさん釣れる、釣ろうとして早いタイミングのアタリにも手をだすでしょう。もちろん、積極的にアワせていくことは悪いことではありません。早いアタリで釣れてくれば文句ナシです。でも、これで空振るようなら要注意。底釣りはヒット率重視の釣りです。乗らないアタリを追いかけるとはならず、確実にヒットするアタリにアワせる選球眼も大事です。

底釣りはエサやタツ

クルセッティングでの対応幅が狭い釣り。振り込みやアタリの選び方、ちよつとしたエサの硬軟や大小など、ちよつとした対応で差がでます。ちよつとした対応が釣果に直結することを頭に入れて置いてください。

仕掛け図
 竿●水深に合わせる
 ミチイト●0.8～1号フロロ

ウキ●ボディ8～16cm
 細パイプトップ

ハリス●0.4～0.5号
 上35～50cm、下42～60cm
 (ハリス段差7～10cm)

ハリ●上下4～6号

オモリ 寸寸大

●水深2～3m
 「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25mm厚板オモリ 8mm × 30mm

●水深2～3m

●水深4m前後
 「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25mm厚板オモリ 8mm × 30mm

●水深4m前後

●エサブランド

「ダンゴの底釣り夏」100 cc+
「ダンゴの底釣り冬」100 cc+
「バラケマツハ」100 cc+
水 140 cc



+



+

エサの大きさとハリ

実寸大



推奨ハリサイズ=5号



+



両ダンゴの底釣り

どこでも釣れる信頼のブレンド

●エサブレンド

「ダンゴの底釣り芯華」200 cc + 水 100 cc or 120 cc

標準水量は水 100 ccだが、水深が浅い場合（2 m前後）は、水を多くして（120 cc）エサ持ち加減を調整する。水量が多くなれば、その分エサ持ちは弱くなるので、エサが持ちすぎて空振る場合などにも有効だ。



●特徴

抜群の集魚力と活性の高い時季のへら鮎のアタックにも負けない重さでエサ持ちに優れている。水分量の違いでエサ持ちの加減を調整できる。

●作り方

「ダンゴの底釣り芯華」200 ccをボウルに入れ、水 100 ccまたは 120 ccを注いでよく混ぜる。まとまりだしたらボウルの隅に寄せておき、しばらく放置して充分に吸水させる。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。軽く押し練りして丸めてエサ付けして打ち始める。3～4目盛りのナジミ幅がでるのが基準。ナジミ幅がでないときは、手揉みや押し練りを加えて調整する。

つれるエサづくり一筋
丸マルキュー

トロロ自体の広がりを抑え、ウキにナジミをもたらすネバリと重さ。
 繊維を切らずに差し込みやすい粒子のやわらかさと形状。
 徐々に混ざってダマになりにくく、
 ナジミがいいので一晩寝かせる手間も不要。
 釣り場で作ってもしっかり釣り込めるエサに仕上がる、
 両トロロ専用麩です。

新発売

やりたいときに
 すぐでできる。



●美緑(ミリヨク) 310g(チャック袋)

へら釣り天国

Twitter、Facebookで情報配信中!

丸マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909
 ホームページアドレス <https://www.marukyu.com/>

2022.06.M.17000